

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0970500484
法人名	社会福祉法人久寿福祉会
事業所名	グループホームおしはらの里
所在地	栃木県鹿沼市縦山町40-2 (電話) 0289-60-2002

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年5月9日	評価確定日	平成20年6月5日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算8人	
	7 人	常勤5人, 非常勤2人, 常勤換算7人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	17,600 円	その他の経費(月額)	
敷 金	有(100,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	7 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 83.3 歳	最低 76 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あきばクリニック、鈴木クリーン歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に面し、隣にはスーパーマーケットがある便利な場所に当ホームは位置している。敷地内にはデイサービスセンター、学童保育所があり、ホームも含めて3つの建物が中庭を囲むように配置されている。リビング続きで広いウッドデッキがあり、リビングからも外に出やすくなっており、また訪問時にはウッドデッキのテーブルで昼食をとる方もいるなど、開放的な空間になっている。自己評価時には、職員がやや手薄になっていたが、職員が補充され、また管理者も代ったことをきっかけに、職員会議を定期開催するようにしたり、申し送りの方法を変えたり、介護計画の評価方法を変えてみたりと意欲的に質の向上に取り組んでいる。昨年度は芋煮会に地域の方を誘ったりして、地域との交流を深めていこうとしているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今までの外部評価の結果を受けて理念(介護方針)をつくったり、地域の方を誘って芋煮会を開催するなど地域との関係づくりに取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、前管理者(4月1日から現管理者)と計画作成担当者で行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議のメンバーは入居者家族代表、自治会長、地域包括支援センター(市)職員となっている。ホームの活動報告、外部評価の結果報告をし、また地域との交流について相談し、芋煮会の招待に結び付けるなど運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時や電話等で日常の暮らしぶりや健康状態等をその都度知らせている。預かり金の記録は申し出があったときに確認してもらっている。職員の異動等があったときは、家族の来訪時や電話で挨拶をしている。ユニット毎に入居者の作品や写真を飾れるコーナーがある。重要事項説明書にホームの苦情受付担当者及び責任者、第三者委員の連絡先を明記している。玄関には意見箱と用紙を用意している。行事を実施した後はアンケートを実施している。家族の訪問の際には職員から声をかけ意見、要望を聞き、改善につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。昨年度は芋煮会を開催し、地域の方も招いている。地域のお祭りなどにも出掛けたりしている。同じ敷地内にデイサービスセンター、学童保育所があり、人々の出入りが多い。グループホームとしての地域への認知度は今一つと感じている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が中心となって職員で「利用者を受容するケア」「利用者のニーズを探り実現に向けたケア」など4項目からなる介護方針を作り、これをホームの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	自己評価の時点では、改まった形での申し送りではなかったが、5月から全員で申し送りをするようになり、また今年度から職員会議を月1回開催するようになり、そのような場を活かして理念の共有を図っている。	○	昨年度に比べて取り組みを変えている部分もある。職員間の意識を再確認し、改めてホームとして大切にすることを共有していく意味でも理念について職員間で話し合いをもってみることに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。昨年度は芋煮会を開催し、地域の方も招いている。地域のお祭りなどにも出掛けたりしている。同じ敷地内にデイサービスセンター、学童保育所があり、人々の出入りは多い。グループホームとしての地域への認知度は今一つと感じている。	○	法人で検討しているホームページや市の広報などの媒体を使ってホームをアピールしていくことも考えている。芋煮会などのホーム行事に地域の方を招くことも続けながら、日常の中で気軽に行き来できるような取り組みを検討していくことにも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今までの外部評価の結果を受けて理念（介護方針）をつくったり、地域の方を誘って芋煮会を開催するなど地域との関係づくりに取り組んでいる。今回の自己評価は、前管理者（4月1日から現管理者）と計画作成担当者で行った。	○	今後、自己評価を行う際は全職員が参加することを考えている。職員間の差異などについて話し合ったりしながら、自己評価・外部評価の機会をより活かしていくことに期待したい。

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは入居者家族代表、自治会長、地域包括支援センター（市）職員となっている。ホームの活動報告、外部評価の結果報告をし、また地域との交流について相談し、芋煮会の招待に結び付けるなど運営に活かしている。	○	地域との関わりについて模索していることから、例えばメンバー構成を検討するなど運営推進会議がより有効になるような方策の検討を期待したい。また、運営推進会議での検討内容を家族や職員にもフィードバックしていくことにも期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ケアマネジャーである管理者が窓口になって市との連絡・相談をしている。管理者は、市のケアマネジャー連絡協議会に参加することもあり、担当者とのつながりがあって関係をつくっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や電話等で日常の暮らしぶりや健康状態等をその都度知らせている。預かり金の記録は申し出があったときに確認してもらっている。職員の異動等があったときは、家族の来訪時や電話で挨拶をしている。ユニット毎に入居者の作品や写真を飾れるコーナーがある。	○	家族に定期的にホームのできごとや暮らしぶり、職員の異動があったときのお知らせをする手段として、ホームだよりやお便りなどの取り組みの検討を期待したい。また、預かり金の確認についても定期的に報告できるような方法を検討することに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホームの苦情受付担当者及び責任者、第三者委員の連絡先を明記している。玄関には意見箱と用紙を用意している。行事を実施した後はアンケートを実施している。家族の訪問の際には職員から声をかけ意見、要望を聞き、改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員人事は法人で行っており、4月と10月の半年ごとに異動の可能性がある。異動等があったときには、引き継ぎの時間をとり、周りの職員がカバーしながら入居者に影響がないように配慮している。家族からは、「せっかく慣れたのに異動してしまった」という声も寄せられる。	○	ホームとしては、異動等はなるべく抑えたいと考えている。職員の異動のあり方について、運営者と話し合いをすることに期待したい。

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から内部の勉強会を行うこととし、外部研修を受けた際の伝達を行うことも考えている。外部研修については、法人から参加者の推薦があったり、参加希望者を募るなどして参加させている。認知症介護実践研修は順番に受講することとしており、今年度は2名受講する予定である。半年に1回人事考課が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会のほか、近隣のグループホームとの連絡会に加入している。管理者は、相談ごとができる他のホームの管理者との関係を持っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の申し込みがあった時には、自宅に訪問するなどして困っていることや不安なことなどを聞き、その後ホームの体験利用をしてもらっている。体験利用は3日ほどホームに来てもらい食事やおやつなどを一緒に食べてもらいながら、ホームの雰囲気をみてもらい徐々に慣れるように配慮している。要望があれば泊まりの体験も受け入れることも考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることに配慮しながら、一緒に食事の盛り付けをしたり、後片付けをしていた。調理方法や味付け、昔の歌や言葉など入居者から教えてもらうことも多い。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で入居者の希望、意向を把握するよう努めている。職員の居室担当制も取り入れている。また、困難な時は入居の時に聞いた生活歴を参考にしたり、家族に相談したりして検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、計画作成担当者、その時に勤務している職員で話し合い、入居者・家族の意向に沿った計画の作成・見直しをしている。職員の気づきをより反映させていくことを考えている。	○	例えばセンター方式のアセスメントを職員、家族等の関係者で分担しながら行ってみるなど、チームとしての計画作成を充実させていくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長くても半年を目安に定期的な見直しをしている。モニタリングの手法を今年度から変えて、計画に対する達成度の確認がよりわかりやすくするようにしており、今後より柔軟で前向きな計画の見直しをしていくことにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的に家族が付き添うこととなっているが、無理な時は職員が対応している。また、お酒を買いに出かけたり、行事的でない外出の機会をつくったりと柔軟な支援に努めている。隣接するデイサービスセンターのレクリエーションに参加することもある。		

グループホームおしはらの里


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院は基本的に家族が付き添うこととなっているが、必要に応じて職員もついていたり、情報提供書を作成して適切な医療が受けられるよう配慮している。隣接するデイサービスセンターの看護師との連携を図っており、近々、ホーム職員として看護師を配置する予定である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前から重度化した時のことを家族と話し、実際に重度化した場合には協力医とも相談しながら、その方にあった場所を探している。食事が取れるかどうかはホームでの生活の継続の可否を検討すべき時と考えているが、体制を整えば重度化や終末期に対応したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護方針で「利用者を受容するケア」を掲げ、入居者を尊重して接するようにしている。個人記録などは事務室の見えない場所に保管している。夜間は宿直1名、夜勤1名の体制になるが、入居者への配慮が行き届かない場面もあると考えている。	○	職員の精神的余裕がなくなる時間帯、場面であっても、入居者の尊重、受容ができるよう個々人の努力、チーム内での助け合いを考えている。必要によっては運営者も交えて体制的な検討もしながら介護理念の追求をしていくことに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己評価の時点では職員が少ない状況であったが、現在は補充されたことで入居者のペースにそった支援ができるように状況が改善された。なるべくゆったりとした時間が流れるようにしつつも、個々の要望に沿った外出など、入居者の希望に沿った暮らしを支援できるよう努めている。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、ご飯以外は委託業者が作っているが、入居者のできることに配慮しつつ、一緒に盛り付けをしたり、片づけ、洗い物をしたりしている。職員は入居者と同じものを食べるか、自分で弁当などを持ってくるか選んでいるが、入居者と一緒に食事をしている。訪問時は天気が良いこともあり、広いウッドデッキで食事をする方もいた。嗜好にも配慮し、晩酌をする方もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日10:00～15:00の時間帯で、2日に1回は入浴できるよう支援している。浴槽が2つあり仲が良い方同士で入浴する方もいる。日曜日は希望者のみ入浴を支援している。夜間の入浴を希望する方もいるが、体制的に対応できない現状がある。	○	介護理念からも一人ひとりの希望の実現をしたいという思いがあり、職員配置上の困難さでのジレンマを感じている。希望の実現に向けた思いを大切にしながら、希望をかなえられる工夫を考えていくことに期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、片づけ、洗濯物干し・たたみ、掃除など、入居者のできることに配慮しながら家事の場面をつくったり、カラオケ、水引細工、晩酌など楽しみごと、気晴らしの支援をしている。隣接のデイサービスセンターのレクリエーションに参加することもある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事的な外出を月3回程度行っており、泊まりがけで出かけたこともある。また、買い物、散歩、草取りなど外出の機会を日常的に取り入れている。広いウッドデッキがあり、また庭も足にやさしい素材で舗装されていたりと車いす等を使っても外気に触れやすい環境になっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーチャイムが付いているが、基本的に日中は鍵をかけていない。また、リビングからウッドデッキを通して自由に外に出られるようになっている。訪問時にも自由に出入りする入居者の姿が見られた。		

グループホームおしはらの里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署立ち会いの訓練のほか、総合訓練を2回、通報・消火などの訓練を3回、計6回を1ヶ月おきに実施している。	○	地域との関係づくりということも含めて、有事の際に協力が得られるような体制をつくっていくことを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士が献立表をつくり、昼食はご飯以外は委託業者が作っている。食事摂取量を毎食確認し、水分摂取量は必要に応じて確認して、水分補給を促すなどしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広いが、昭和を感じさせる戸で仕切った3つの部屋と、ソファなどを置いて入居者が思い思いに過ごせる空間になっている。和室部分など所々にホウキが掛っていたりと生活感のある空間づくりをしている。音、光なども適切に配慮され、室内に空気のよどみ等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に必ず使い慣れた家具や食器などの生活用品を持参してもらうように説明している。持ち込むものに多寡はあるが、タンスや着物など馴染みの物、使い慣れたものを持ってきている方もいる。職員の居室担当制を取り入れている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。